

2026年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第2次募集 入学試験問題

(2枚のうち1枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	人と自然の共生		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1 (1)～(12)のうち、4 つを選択して解答してください。また、選択した問題の番号を書いたから、解答してください。

- (1) 流域
- (2) 霞堤
- (3) ジオパーク
- (4) 気候正義
- (5) 社会的リンク論
- (6) 被害構造論
- (7) 食料・農業・農村基本法
- (8) 圃場整備に伴う換地処分における「従前地」および「換地」(この場合の換地は、処理そのものではなく、一定の土地を指す)
- (9) 水質をみる場合の「BOD(生物化学的酸素要求量)」と「DO(溶存酸素)」
- (10) TKB48
- (11) 防災のための集団移転促進事業
- (12) Disaster Imagination Game

【応用】

問題2 (1)～(4)のうち、1つを選択して解答してください。また、選択した問題の番号を書いたから、解答してください。

- (1) 次について解答してください。

我が国は、四季折々の気候と変化に富んだ地形など、美しい国土を有しているが、その反面、「災害大国」と呼ばれるほど、様々な自然災害を経験してきました。近年の自然災害の一例を挙げ、その発生メカニズム、被害状況、本災害への対応策(政策、地域社会の取り組み、自身の考えなど)について述べて下さい。

2026年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第2次募集 入学試験問題

(2枚のうち2枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	<input type="checkbox"/> 一般・ <input type="checkbox"/> 外国人・ <input type="checkbox"/> 社会人
試験科目	人と自然の共生		

(2) 次の①および②について解答してください。

① 耕作が放棄された水田における牛(ウシ)の放牧には、どのような効果(意義)がありますか。土地利用上の効果を中心に説明してください。

② 地方の人口、市町村などの歳出が減少するなかで、農村の土地(山林も含む)を管理するには、どのような「対策の方針」(基本的な考え方)が必要と考えられますか。ここでは、できるだけ多くの「対策の方針」を記述してください(「唯一の最善」を問うものではありません)。また、特に重要と考える「対策の方針」については、それをあげた理由も記述してください。

(3) 次の①および②について解答してください。

①環境問題の解決に向けて、複数の価値を重視することの意義について、具体的な事例を踏まえながら論じてください。

②その際、大学の研究者にできそうなこと、そしてできそうにないことは何ですか。そのように考えた理由も記述してください。

(4) 次について解答してください。

令和6年能登半島地震の発生を受けて、令和7年6月に国の災害対策基本法および関連する法律が改正された。改正内容は①国による災害対応の強化 ②被災者支援の充実 ③インフラ復旧・復興の迅速化 の3の柱からなっている。このうち、②被災者支援の充実について、改正内容を説明し、その背景となった能登半島地震における具体的な課題・問題点について述べなさい。

2026 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

第 2 次募集 学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 一般・外国人・社会人

科目名 人と自然の共生

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題 1

(1) ～ (3) の出題意図

「人と自然の共生」では、国土の成り立ちを理解するための地理的な基本的用語を理解することが重要である。ここでは、国土を理解する上で地理的な基本用語について出題した。

(1) 国土政策総合研究所の河川用語の「流域」に関する言葉の定義：

<https://www.nilim.go.jp/lab/rcg/newhp/yougo/words/096/096.html>

(2) 国土交通省の「霞堤」に関する言葉の定義：

https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kasen/jiten/yougo/05_06.htm

(3) 日本ジオパークネットワークの「ジオパーク」の言葉の説明：

<https://geopark.jp/geopark/about/>

(4) ～ (6) の出題意図

「人と自然の共生」では、環境社会学の基本的概念を理解することが重要である。ここでは、環境社会学の基本用語について出題した。

(4) 気候正義

環境社会学会編 (2023) 『環境社会学事典』丸善、558-559 ページ

(5) 社会的リンク論

環境社会学会編 (2023) 『環境社会学事典』丸善、214-215 ページ

(6) 被害構造論

環境社会学会編 (2023) 『環境社会学事典』丸善、108-109 ページ

環境社会学会編 (2023) 『環境社会学事典』丸善、112-113 ページ

(7) ～ (9) の出題意図

「人と自然の共生」では、農業・農村・農村の環境（特に水質）などに関する知識が重要である。ここでは、基礎的な用語について出題した。関連する文献は次のとおり。なお、いずれも、当該分野では非常に有名な書籍であることを付け加えておく。

(7) 『改訂農村計画学』（改訂農村計画学編集委員会，農業農村工学会発行，2003）8-9

(8) 『改訂農村計画学』（改訂農村計画学編集委員会，農業農村工学会発行，2003）78-79

(9) 『改訂7版農業農村工学ハンドブック基礎編』（農業農村工学会（編・発行）2010）241-244

(10) ～ (12) の出題意図

地域の持続性を考える上で災害対応は重要な課題となる。ここでは災害対応に関わる基礎的用語を取り上げて出題している。

(10) TKB48

避難所・避難生活学会が提唱する災害対応方針。発災後48時間以内にトイレ（T）、温かい食事（キッチン：K）、パーソナルスペース（ベッド：B）を避難所に提供する。

https://www.bousai.go.jp/jishin/ното/taisaku_wg_02/pdf/siryo4_1_5.pdf

(11) 防災のための集団移転促進事業

自然災害が発生した地域又は災害のおそれのある区域において、地域が一体となって居住に適当でない地域からの住居の集団的移転を促進することを目的とした、住宅団地の整備、住居の移転、移転元地の買取等を行う市町村等に対し、事業費の一部を補助する国の事業

<https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001609106.pdf>

(12) Disaster Imagination Game

自分たちの地域で起こりうる災害を想像し、地図に書き込みながら話し合い、具体的な対応策や避難経路を考える「災害図上訓練」。

<https://www.bousaihaku.com/wp/wp-content/uploads/2017/03/z06.pdf>

問題2（1）の出題意図

「人と自然の共生」では、我が国の国土の自然災害に関する理解が重要である。ここでは自然災害への理解、思考を問うため、一例を挙げ、発生の要因、被害状況、対応策などを解説し、自身が理解したうえで防災に対する原因分析力、現状把握能力、思考力などを有するかについて問うものである。定義としての正解はないが、防災白書や国土交通白書などの概要に類する内容も評価し、併せて自身の思考の論理性についても評価する。

(2) の出題意図

「人と自然の共生」では、植生の遷移を意識した土地管理、さらにいえば、人口や予算が減少するなかでの土地管理が非常に重要な課題となっている。①は、放棄された水田における遷移阻止の好例としてあげた。放牧の土地利用上の効果は多岐に渡るが、草地の土地利用上の可能性（例：復田の可能性）に言及している場合は、その点を特に評価する。②についても、確固たる「模範解答」は存在しないが、研究に必要な「思考の広がり」「思考の流れ（例：原因と結果）」などを評価する。

(3) の出題意図

①「人と自然の共生」では、環境社会学の理論やそれに基づいた事例分析能力が重要である。ここでは環境社会学の理論の一つである順応的ガバナンス論に基づいた事例分析能力を問うものである。複数の価値とは何か、それらを重視する意義は何か、それらを重視した協働プロセスはどのように構築できる

のか、といった思考力を有しているか問うものである。

②研究者あるいは自身のかかわり方について論じることにより、問題解決について、どのように捉えているか問うものである。

(4) の出題意図

被災者支援の充実に関わる改正点は大きく4点

1) 被災者に対する福祉的支援等の充実

高齢者、在宅避難者などの多様な支援ニーズに対応するため、災害時の福祉サービスの提供を追加し、福祉関係者との連携を強化した。能登半島地震は過疎・高齢化した地域で発生した災害であったことから、従来の食料・住居の支援だけではなく、福祉的な支援が必要となったが、DWAT（災害派遣福祉チーム）の派遣の法的根拠がないなど、十分な福祉的支援が行えなかったことを踏まえて改正が行われた。

2) 広域避難の円滑化

広域避難に関わる自治体間の連携強化、情報提供の充実、被災者台帳作成に関わる自治体支援の強化が盛り込まれた。能登半島地震では交通網寸断による孤立集落の多発に伴って広域二次避難が行われた。しかし、避難元自治体と避難先自治体の連携や情報共有が不十分で広域避難者の追跡が困難で十分な支援が行えなくなったことを踏まえて改正が行われた。

3) 「被災者援護協力団体」の登録制度の創設

被災者支援・避難所運営に関わる協力団体をあらかじめ登録する制度を創設し、登録団体に対して情報提供や実費弁済を行う法的根拠を定めた。大規模災害発生時には支援団体がプッシュで被災地入りをして支援を行うが、これまでこうした団体に法的根拠がなかったため、情報提供や費用弁済ができなかった。また自治体側としてはその団体を信用できるかどうかの判断材料がなかった。能登半島地震においても同様の状況が生じていたことを踏まえて改正が行われた。

4) 防災DX・備蓄の推進

被災者支援などにあたってのデジタル技術の活用が明記されるとともに、自治体が備蓄状況を定期的に公表することが定められた。広域避難者の効率的な追跡ができなかったこと、組織間でデータフォーマットが異なったことで突合や共有が困難であったことを踏まえ、DXの推進が追記された。また、能登半島地震では自治体の備蓄が十分ではなかったことを受けて、備蓄に関する情報公開が定められた。

https://www.bousai.go.jp/taisaku/kihonhou/pdf/r7_01_gaiyou.pdf

2026年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第2次募集 入学試験問題

(1枚のうち 1枚目)

専攻名	地域創造学	選抜区分	一般
試験科目	地域協働		

次の問題に答えなさい。なお、解答は指定の用紙を使用しなさい。

【基礎】

以下の6個の用語から4個を選択し、その意味を説明せよ。

解答の順番は問わないが、どの語を選択したのかが分かるように記述すること。

- (1) コミュニティゾーン
- (2) トランジットモール
- (3) 都市計画法
- (4) 歩車共存道路
- (5) 景観計画区域
- (6) 交通需要マネジメント

【応用】

街路を中心とした公共空間の利活用の潮流と課題および今後の展望について、以下の用語を使用しながら具体的な実例を挙げて説明せよ。

ウォーカービリティ、リンク&プレイス

2026 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

第 2 次募集 学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学 選抜区分 一般・外国人・社会人

科目名 地域協働

解答例又は出題意図

【基礎】

「地域協働」で取り扱われる内容は、都市の計画に係る制度、手法、実例など多岐にわたる。出願者がこれらの広範な分野に関する基礎的な知識を有するか否かを評価することを意図し、参考図書から満遍なく関連用語を抽出したうえで、そこから選択した内容に関して説明を求めた。

- ① コミュニティゾーン（脇田祥尚：みんなの都市計画，理工図書，pp. 109）
- ② トランジットモール（同上，pp. 109）
- ③ 都市計画法（同上，pp. 125）
- ④ 歩車共存道路（同上，pp. 159）
- ⑤ 景観計画区域（同上，pp. 69）
- ⑥ 道路構造令（同上，pp. 159）

【応用】

地域創造学専攻で重視される「地域特性への配慮」の重要性を、建築・都市計画的な観点からの潮流を踏まえて論じる知識と理解力を有しているか、また具体的な地域の事例に関する関心と知識を有しているかを評価することを意図し、街路を中心とした公共空間の利活用に関する潮流と諸課題について具体的な事例を通じて説明することを求めた。

2026年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第2次募集 入学試験問題

(1 枚のうち 1 枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・ 社会人
試験科目	心身健康学研究		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1 以下の(a)～(h)から5つを選択し、それぞれ説明してください。

- (a)放課後等デイサービス
- (b)スクールカウンセラー
- (c)吃音の氷山モデル
- (d)発達障害支援センター
- (e)個別の教育支援計画
- (f)実行機能
- (g)共同注意
- (h)臨界期(感受性期)

【応用】

問題2 障害のある人が社会の中で感じるバリア(社会的障壁)には、「物理的バリア」、「制度的バリア」、「文化・情報面のバリア」、「意識上のバリア」などがあります。このことについて、(1)障害のある人は、実際に社会の中でどのような「物理的バリア」、「制度的バリア」、「文化・情報面のバリア」、「意識上のバリア」などを感じているか、(2)(1)で挙げたバリアを取り除くための対応策にはどのようなものがあるか、複数の例を挙げ、具体的に述べてください。

2026年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

第2次募集 学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 一般・外国人・社会人

科目名 心身健康学研究

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

【基礎】

問題1 以下の(a)～(h)から5つを選択し、それぞれ説明してください。

心身健康学に関連する基礎的事項について理解を問う。具体的には、以下にそれぞれ挙げるような事柄が記載されている時に加点する。

(※これら以外の適切な記載についても加点することがある)

(a)放課後等デイサービス

- ・児童福祉法において「学校等に通っている障害児が授業の終了後や休業日に通わせる施設」とされていること
- ・「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」を行なっていること
- ・本人支援では、「日常生活の充実と自立支援のための活動」、「多様な遊びや体験活動」、「地域交流の活動」、「子どもが主体的に参画できる活動」を複数組み合わせながら、個々の子どもに応じた支援を行なっていること
- ・利用に当たっては「障害児通所支援受給者証」が必要なこと
- ・近年、事業者数、利用者数が急速に増加していること など

(b)スクールカウンセラー

- ・学校に配置され、児童生徒・保護者、教職員への相談を行う専門職であること
- ・不登校やいじめ、友達関係、学習関係、障害など、さまざまな相談業務を担当していること
- ・教職員への研修や、事件・事故などにおける被害・被災児童生徒のケアなども大きな役割をしていること
- ・原則、公認心理師など心理専門職が従事していること
- ・非常勤で勤務している者が多い、1校あたりの勤務時間が限定されており児童生徒の状況に応じた柔軟な対応が取りにくいなどの課題があること など

(c)吃音の氷山モデル

- ・アメリカの吃音研究者で自身も吃音当事者であったシーアンにより提唱されたモデルであること
- ・吃音を氷山に喩え、海面上に浮かんでいる部分を吃音の言語症状、海面下に沈んでいる部分を吃音の心理的問題と捉えたこと。また、氷山の大部分が海面下に沈んでいることより、吃音のある人は、言語症状よりも、心理症状により困難を感じているとしたこと
- ・1971年とかなり昔に提唱された概念だが、いまだに、多くの論文や書籍で引用されるなど、支持されていること など

(d) 発達障害支援センター

- ・発達障害児者への支援を総合的に行うことを目的とした専門的機関であること
- ・発達障害者支援法に基づき設置されていること
- ・都道府県及び政令指定都市が設置主体となっていること
- ・相談支援、発達支援、就労支援、普及啓発・研修などの事業を行なっていること など

(e) 個別の教育支援計画

- ・子ども本人のニーズに合わせて、学校だけでなく家庭・福祉・医療なども含めた「長期的に一貫した支援」を整理するための計画であること
- ・本人の強みや困り感、支援目標、支援内容(学習・生活・対人・行動等)、合理的配慮、役割分担、連絡方法などをまとめるものであること
- ・保護者・本人の意向を確認しながら、担任や特別支援教育コーディネーター等が中心となって、作成・共有すること
- ・作って終わりではなく、定期的に振り返り(評価)→修正し、進級・進学などの「移行期」に引き継いで支援の連続性を確保するために使われること など

(f) 実行機能

- ・目的に向かって、行動を計画したり、実行、調整するための脳の働きであること
- ・主な要素は抑制、ワーキングメモリ、認知的柔軟性などであること
- ・実行機能が弱いと、忘れ物が多い、手順がわからない、時間配分が苦手、途中で別のことに注意がそれる、などの生活上の困難が起こりやすくなること
- ・ASD や ADHD、学習障害などで困難が目立つことがあり、努力不足などと間違われやすいこと
- ・見通しを持たせる、スモールステップ、タイマーの使用、環境調整などの支援が有効といわれていること など

(g) 共同注意

- ・子どもと大人(または他者)が、同じ対象物(物や人、出来事)に注意を向け、それを共有する能力のこと。
- ・指さしや相手の視線を確認すること、何かしてほしいわけではないけれども「見せる」行動などが共同注意行動であり、「見て!」「一緒に見てるね」が成立している状態であること
- ・ことばの獲得や社会的コミュニケーションの基盤であり、相手の意図を理解したり伝えたりする力につながる
- ・自閉スペクトラム症などでは共同注意行動がみられにくかったり、見られる時期が通常よりも遅くなること
- ・支援として、子どもの興味に合わせて同じものを見ることや、無理に目を合わせさせず自然なやりとりを増やすことなど など

(h) 臨界期(感受性期)

- ・ある能力(例:言語、視覚、社会性など)が特に育ちやすい時期であること
- ・脳の可塑性(学習により回路が変わりやすい性質)が高く、経験や環境の影響を強く受ける時期であること。

- ・この時期には、刺激を受けて頻度が高く使う回路は強くなり、あまり使わない回路は弱くなること
- ・視覚機能の獲得、言語の音の聞き分けなどは、この時期に適切な刺激を受けることが重要であるといわれていること
- ・障害のある子どもとのかかわりにおいては、「臨界期を過ぎたら無理」と決めつけない。後からも学習は可能で、ただ効率や方法が変わる、という理解が大事であること。

【応用】

問題2 障害のある人が社会の中で感じるバリア(社会的障壁)には、「物理的バリア」、「制度的バリア」、「文化・情報面のバリア」、「意識上のバリア」などがあるといわれています。このことについて、(1)障害のある人は、実際に社会の中でどのような「物理的バリア」、「制度的バリア」、「文化・情報面のバリア」、「意識上のバリア」などを感じているか、(2)(1)で挙げたバリアを取り除くための対応策にはどのようなものがあるか、複数の例を挙げ、具体的に述べてください。

障害のある人の支援を考える上で重要な概念の一つであるバリア(社会的障壁)についての理解や考えを問う。以下に挙げるような事柄が記載されている時に加点する。

(※これら以外の適切な記載についても加点することがある)

(1)障害のある人が社会の中で感じるバリアにはどのようなものがあるか

障害のある人が社会の中で感じるバリアについて、物理的、制度的、文化・情報面、意識上、などの観点から複数の具体的な例が挙げられている(以下に、例を挙げる。下記に挙げた以外の観点・障害についての言及でも構わない)。

・物理的なバリア

- ・エレベーターやスロープがなく、車椅子での移動ができない(肢体不自由など)
- ・教室やオフィスがオープンな空間となっており周囲の人の視線を受けやすい(自閉スペクトラム症など)
- ・雑音や環境音が多い(聴覚障害、自閉スペクトラム症など)

・制度的なバリア

- ・試験などにおける回答方法(記述、口述など)や回答時間の制約(学習障害、言語障害など)

・文化・情報面のバリア

- ・言語のみによる情報提示(学習障害、知的障害など)
- ・婉曲的な表現や比喩的な表現が多い(自閉スペクトラム症、知的障害など)
- ・曖昧だったり暗黙的だったりするルール(自閉スペクトラム症、知的障害など)
- ・口頭のみによる情報提供(注意欠如・多動性障害など)

・意識上のバリア

- ・障害に対する無理解や誤解、偏見(全ての障害)

(2)(1)で挙げたバリアを取り除くための対応策にはどのようなものがあるか

(1)に挙げられたバリアを取り除くための対応策について、具体的な例が挙げられている(以下に、例を挙げる)。

・物理的なバリア

- ・エレベーターやスロープを設置する

- ・エレベーターの代わりに階段昇降機を設置する
- ・周囲の人の視線を遮る衝立の使用を認める
- ・イヤマフやノイズキャンセリングヘッドホンなどの使用を認める
- ・制度的なバリア
 - ・回答方法の変更(拡大回答用紙の使用、キーボード入力)や回答時間の延長を認める
- ・文化・情報面のバリア
 - ・言語以外の情報(視覚情報など)を含めたさまざまな方法で情報伝達を行う(電子教科書の使用など)
 - ・配布物等で使用するフォントの種類やサイズ、文字の色(背景とのコントラストを含む)を調整する
 - ・婉曲的な表現や比喩的な表現を使わず、明確に伝える
 - ・ルールを明示的に示し、変更しない
 - ・文字化された情報の提供や情報提供のリマインドを行う
- ・意識上のバリア
 - ・障害に対する情報提供や啓発を行う
 - ・障害への偏見を認めない学校・企業風土を醸成する(からかいやハラスメントへの厳正な対処など)

2026年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第2次募集 入学試験問題

(1枚のうち 1枚目)

専攻名	地域創造学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	教育支援研究		

次の問題に答えてください。なお、解答は指定の用紙を使用してください。

【基礎】

問題1 以下の人名／用語について説明しなさい。(答案用紙にはどの設問の解答であるかがわかるように解答する設問番号を付記すること)

- (1) フレイレ(Freire, P.)
- (2) 文化資本
- (3) メディアリテラシー
- (4) 指導と評価の一体化

【応用】

問題2 カリキュラム編成に際して考慮すべき背景的要請を四つ挙げ、それぞれの内容を簡潔に説明しなさい。そのうえで、コンピテンシー志向のカリキュラムをPDCAサイクルによって継続的に改善・運用する近年の傾向について、そこに内在する問題点を論じなさい。

2026 年度金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

第2次募集 学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 地域創造学専攻 選抜区分 外国人

科目名 教育支援研究

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

【基礎】

問題1の出題意図は、教育方法に関わる代表的な人物・用語の理解度を測るものである。

【応用】

問題2の出題意図は、大学院進学後に専門的課題に取り組むうえで求められる知識・論理的思考力を有しているかを確認するものである。